

## 英語詩「青春」はウルマンの原作ではなかった

記念すべき創刊号の1面を飾るのはどんな作りがいなのか、編集部員で色々考えましたが、なかなか決ま

りません。研修会で最初の講師がサムエル・ウルマン原作、作山宗久訳の「青春」を朗読して励ましてくれま



した。

「青春とは人生の或る期間ではなく、心の持ち方を云う。」から始まる馴染みのある日本語訳を聞き、編集部員の気持ちを代弁してくれているように感じ、1面に「青春」の詩を掲載することに決定しました。

「青春」の詩をネットで検索していたところ「千の風になって」の日本語作詞、作曲の新井満さんの自由訳「青春とは」を目にし、すごく長いのが気になり、写真詩集を購入。

その「あとがき」に代えてを読んだところ、広く知れ渡っていたのはウルマンのオリジナルではなかったことにびっくり。

新井さんの文によると、マッカーサー元帥が連合国

池辺稔さんが和歌山県・JR見老津駅近くで撮影した「夫婦波」

軍最高司令官として着任し、執務室の壁に「Youth」を掲げ、日々愛誦したと言われています。昭和20年12月ごろ、「リーダーズ・ダイジェスト英語版」に掲載されていた英語詩に感動し翻訳したのは、日本の羊毛工業界の発展に大きく寄与した岡田義夫氏でした。まさかそれが改変版であるとは夢にも思わず…。

岡田氏は自分が翻訳した日本語詩「青春」をデスクの前の壁に張っていたら、たまたま訪ねてきた親友の森平三郎氏（米沢工業専門学校校長）が見つつけ写し取って帰り後年、森氏が桐生の新聞で紹介すると読者の感動を呼び、日本中に広まっていったのだそうです。

とりわけ心を動かされたのは財界人で、電力王と呼ばれた松永安左衛門氏、松下電器の松下幸之助氏らによって岡田氏訳の「青春」はさらに広まりました。

新井氏が歌にしようとして作山宗久氏と宇野収氏の共著本などを読み進めると元帥が愛誦した「Youth」は、ウルマンが書いた「Youth」の原作から半分以上書き直されたものだったのです。

オリジナル版を知ってほしいために講談社の許可を得て新井氏訳を掲載しました。詳細を知りたい方は『青春とは』（原作詩／サムエル・ウルマン 自由訳／新井満 講談社）を参照して下さい。（金子 征二郎）

### となりの輝いている人 紹介して下さい

河内長野市内に住んでいる人、やグループを紹介して下さい。

「元氣ハツラツしている人」「体は不自由だが、気持ち健康な人」「色々な趣味を楽しんで

社会福祉協議会いきい

き情報誌「輝く」編集部

（担当・土橋）

電話65・0133